

石綿濃度は

「問題なし」

市営吉田団地

北九州市

小倉南区上吉田一の市営吉田団地の一部で、天柱に発がん物質とされている石綿（アスベスト）がみつかり、降下防止工事をしてきた問題で、北九州市は十七日「室内の石綿濃度を測定した結果、問題はない」と発表した。市は十一月二十六、二十八の両日、団地のうち五カ所で室内の浮遊粉じんを測定、専門機関に分析を依頼していた。その結果、降下防止工事前に測定した四カ所については、空気二立方センチメートルに石綿の繊維

が一・八一〇・六四本、密度の割合を平均した幾何平均値は、一立方センチメートル当たり一・〇七本だった。

これは、環境省の実施した一般住宅地の調査結果（一立方センチメートル当たり六・三二〇・二六本、幾何平均値一・一六本）と同レベル。また降下工事中の一カ所では一立方センチメートル当たり九十三・一本

で、労働省の示した石綿作業環境での管理濃度である二千本を下回った。また市建設局は入居者の健康調査等の対応策については「一立方センチメートルの濃度を聞いて判断したい」としている。